
教育総合センター

だより

NO. 149

平成 30. 9. 1



「成徳の森」を生かす取組

尼崎市立成徳小学校

校長 田邊 真一

「2月になりました。今週の木曜日、2月8日は何の日か知っている人はいますか。そうです。成徳小の創立記念日、学校の誕生日なのです。今年で65歳になりました…」2月の朝会では、いつも創立記念日の話をしています。

どの学校でも言えることですが、学校の歴史には、それまでの地域の人たちや教職員の思いが込められています。例えば、本校の敷地内には3つの「森」があり、それぞれの森の特長を生かしながら、自然との関わりを深める活動を行っています。

正門を入ると、「ケヤキ並木」があり、夏には涼しい木陰をつくってくれます。隣接する「集いの森」には、多くの野鳥が訪れ、子どもたちを癒してくれます。「成徳の森」では、自然生態をそのまま残しており、探検の場や樹木と他の生物との共存を学ぶ場となっています。南側には「ふれあいの森」があります。子どもたちはあまり足を踏み入れませんが、落ち葉が何層にも重なり、豊かな腐葉土をつくっています。

また、森に囲まれた「仲良し広場」には、様々な野草が生いしげっています。春にはシソ草、秋には彼岸花も見られ、季節の訪れ

を直に感じられます。そこには、バッタやカマキリなどの昆虫や子どもたちに人気のカナヘビなどの小動物も多く棲んでいます。そして、水環境としての「ひょうたん池」や「せせらぎ」。子どもたちには一番人気で、休み時間にはメダカやスジエビ捕りに興じています。

「心豊かで個性ある子ども」の教育目標を具現化するため、毎年度当初には、成徳の森を全教育活動・全領域に位置づける取組を教職員で共通理解を図っています。始業前の「朝ピカ」（屋外清掃活動）、兄弟学級で行う「飼育・栽培活動」や自然環境を生かした理科・生活科の研究は今後も継続していく予定です。

しかしながら、この自然環境ははじめからあったものではありません。昭和28年の開校当初、二階建ての木造校舎の周りには植木一本もなかったと聞きます。育友会の方が山茶花の木を三田市まで戴きに行ったり、せせらぎの改修を教職員・子どもと一緒にしたりと目に見えない努力があったのです。

このことを、現在の子どもたちや教職員、保護者や地域の方々にも伝えていく責務があると感じています。

☆☆ 教育総合センターの道徳教育研修 ☆☆

学力向上、いじめ問題、気になる生徒や保護者への対応など、教育現場の課題は多く、先生方は日々全力で取り組まれています。そんな中、「特別の教科 道徳」が小学校では、平成30年度からスタートしました。中学校においても、平成31年度より施行されます。

1 特別の教科 道徳

先生方から聞かれる言葉は、「評価をどのようにつけばいいのか」「指導と評価は一体であるというが、評価のためだけの指導になってしまうのではないか」といった懸念の言葉です。「特別の教科 道徳」になって変わることと変わらないことを整理します。まず変わることは、教科書が配布されることと、評価が必要となることです。変わらないことは、年間授業時数や、道徳教育の目標や内容項目、そして道徳教育を学校の教育活動全体を通じて行うものということです。言い換えれば今まで培ってこられた道徳教育を大きく変えなければならないということではないのです。

子どもたちが、成長する中で培ってきた道徳性を基に、他者との対話や、心の中で自己内対話をすることで、自己の生き方について考えが深まっていくのです。つまり、教えること（teach）よりも、子どもたちの発言を受容（catch）し、共有する教員の姿勢が大切であるとされています。

2 道徳教育研修

教育総合センターの道徳教育研修では、子どもたちや先生方が、道徳の授業って楽しいなと思ってもらえるような授業づくりのために、四天王寺大学 教育学部 杉中康平 准教授に講師として来て頂いております。

今年度は5月11日と、9月10日の2回実施いたします。第1回の研修会では子どもたちの道徳的価値の自覚や、自己の生き方についての考えが深まっていくような発問や問い返しの工夫の重要性について教えて頂きました。

また、ご教授頂いた発問の工夫を取り入れた授業を各校の道徳教育推進教師の方々が実施し、その実践をレポートにまとめ、第2回の研修会で交流します。杉中先生に助言を頂きながら、研修内容を深めます。

最終的には、各校に市内道徳推進教師の方々が作成された授業展開と実践レポートを1冊のファイルとして配布することを考えています。是非多くの先生方に共有して頂き、対話と受容のある授業を展開するために、自己の生き方についての考え方が深まる発問や問い返しの工夫をして頂きたいと考えています。

評価については、一人一人の成長や気づきがフィードバックできるような評価になるように、個別の様子を見取っていくことが大切です。

3 完全実施に向けて

「特別の教科 道徳」の全面実施に向けて、兵庫県教育委員会のホームページに、「道徳教育実践研究事業のまとめ」が記載されていますので、是非目を通してください。そこには、子どもたちのいきいきとした笑顔や、発信を引き出す授業づくりに向けてのヒントが数多く掲載されています。

考え議論する道徳への授業改善に取り組むことで、子どもたちは、“道徳の授業が好き”になってくれると思っています。道徳の授業を充実したものにするために、毎日の児童・生徒との関わりや、教職員の繋がりが大切だと感じています。道徳教育の充実のために学校全体でチームとして取り組む必要性を感じています。



（教職員の学び支援課指導主事 小林誠一郎）

「特別の教科 道徳の授業をどうつくるか」

～はじめに～

道徳が教科化となり、現場の教員からの「どのように道徳の授業を進めて行けばよいのか。」という声を耳にすることがある。ここでは、道徳の授業をするために私が大切にしているポイントを述べたい。

～教科書の読み物資料で道徳を～

道徳の授業では、読み物資料を活用することが多い。では、なぜ読み物資料を活用するのだろうか。子どもたちにとって、「自分の生き方が変わる」というような体験は、一生の内ですれほどあるものではない。そこで、週一回、生き方や考え方、行動選択の判断基準が変わるような資料を通して学習し、資料の主人公の着ぐるみを着て疑似体験することが、子どもたちの道徳性を育てることに有効であると考えているからである。

～資料分析について～

読み物資料を授業で活用するためには、資料分析が欠かせない。道徳の資料は、主人公が道徳的価値を「自覚する前」、「自覚するところ」、「自覚した後」という構成で書かれているものが多い。発問の中で最初に考えるのが中心発問である。中心発問は、「価値を自覚するところ」を的確に捉え、その時の主人公の心情を問うたり、主人公の行動や判断の理由を問うたりするのが、最もねらいに迫りやすいのではないかと考えられる。また、よりねらいにせまるために補助発問を用意したり、児童の発言に対しての問い返し方を考えたりしておくことも重要である。

～基本的な授業の流れ～

まずは導入であるが、導入には、資料と関連付ける導入と、ねらいとする価値と関連付ける導入がある。いずれにしても、児童が発言しやすい雰囲気を作ることが重要であり、時間はあまりかけない方がよい。

次に、資料を教師が範読する。ここでは、児童が内容を理解することができる速度で読むことが重要である。

そして、基本発問を1つ、もしくは2つする。これは、おさえるべき内容を理解させるためのものであり、時間をかけて深く考えさせる必要はない。時間をかけることで、最も重要な「中心発問」

の時間が不足してしまうからである。ここまでを20分以内に収めたい。

いよいよ、中心発問である。中心発問には、問い返しや補助発問を含めて20分程度かけたい。

十分にねらいにせまることができたところで、終末であるが、適切な説話があれば説話を話すのが良い。なければ、「みんな、今日はよく考えたね。」と締めくくるだけでも良い。最後に5分程度で振り返りシートを書かせて授業終了である。

～授業で大切にしたいこと～

道徳の授業で大切にしたいことは、「対話」である。資料との対話、教師との対話、そして友だちの考えを聞いて自らの内面で自らの心と対話をする。この対話を通して、資料に出てくる主人公の心と自分の心、教師の心と自分の心、そして、友だちの心と自分の心がつながる。

また、「道徳の時間」の授業を深めるための手立てとして大切なことは、児童が道徳的価値について深く考えることができる中心発問をすることである。そして、児童との対話の中で、考えをより詳しく聞いたり、考えの根拠を聞いたり、ゆさぶりをかけたりしながら、問い返しや補助発問をしていくことでより考えを深めることができるのではないかと考えている。そのように授業展開を工夫するためには、やはり、資料分析が不可欠である。

～評価について～

教科化となって、現場の教員が最も気になっているのは、評価の方法ではないだろうか。道徳の時間の評価は、児童の道徳性を評価するものではない。また、他の児童との比較による評価でもない。道徳の時間を通して、児童がいかに成長したかを認め、励ます個人内評価として文章表記で行うものである。

何を元に評価するのかと言うと、授業の最後に児童が書く「振り返りシート」、授業中の発言、友だちの意見を聞く態度などである。児童の発言は、ネームプレートを黒板に貼りながら板書し、最後に板書を写真に撮ることで、記録しておくこともできる。これらを元に、総合的に評価することが必要である。

(尼崎市立上坂部小学校教諭 行本 憲司)

教育情報コーナーのお知らせ

☆教育情報コーナーのご案内

教育情報コーナーでは、先生方に利用していただきたい本や資料、雑誌等を整備しています。教育総合センターでの研修や会議の時など、ぜひお気軽にお立ち寄りください。（3F 教育情報コーナー-mini）

また、必要な図書、資料等のご相談にも応じております。

【道徳に関する図書】

- ・『特別の教科 道徳 Q&A』 松本美奈・貝塚茂樹・西野真由美・合田哲雄編／ミネルヴァ書房
- ・『「道徳科」評価の考え方・進め方』 永田繁雄編／教育開発研究所
- ・『「特別の教科 道徳」で大切なこと』 堀博行著／東洋館出版社
- ・『考える道徳教育とは一学校現場から見た道徳教育』 田畑 豊著／創英社
- ・『楽しく豊かな道徳科の授業をつくる』 横山利弘監修／ミネルヴァ書房
- ・『「考え、議論する道徳」の指導法と評価』 西野真由美・鈴木明雄・貝塚茂樹編／教育出版
- ・『偉人で「考え、議論する」道徳授業を創る』 小泉博明・大館昭彦編著／明治図書
- ・『道徳授業が不安な先生のための特別の教科道徳入門』 野平慎二・竹井 史／明治図書
- ・『「特別の教科 道徳」の授業と評価実践ガイド』 服部敬一／明治図書
- ・『特別の教科 道徳の授業づくりチャレンジ中学校』 渡邊真魚／明治図書
- ・『「特別の教科道徳」の評価 通知表所見の書き方&文例集 小学校低学年・中学年・低学年』 尾高正浩／日本標準

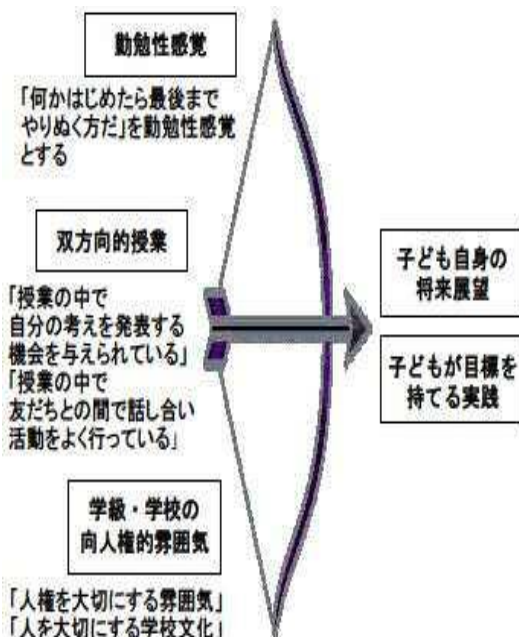


【道徳以外の新着図書】

- ・『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』 新井紀子／東洋経済新報社
- ・『子どもの元気育てる宝塚の学校給食 レシピ&ストーリー』 横田節子／日本機関紙出版センター
- ・『笑育のすすめ』 百瀬和夫／エイチエス
- ・『発達障害の子の「励まし方」がわかる本』 有光興記／講談社
- ・『「あなたが大事」の伝えかた 保健室と養護学からのヒント』 大谷尚子／ジャパンマシニスト
- ・『夢追う教室～太陽の子と歩んだ日々～』 二瓶弘行／文溪堂

（担当 松浦）

☆教育総合センターは、知の宝石箱！



「ひと咲きタワー」は、教職員の学びのタワー！

～『平成27年度尼崎市立小・中学校学力・生活実態調査報告』（平成27年12月大阪大学大学院人間科学研究科 教育文化学研究室）を読んで～

この報告書は尼崎市教委からの委託を受けて志水宏吉教授の研究室が調査の分析結果をまとめたものです。

平成16年度からの経年比較を取り入れ、分析とともに尼崎市の学力向上への提言の書として興味深く読みました。左の図は本書からイメージした学力向上図です。

キーワード：「勤勉性感覚」「学級・学校の向人権的雰囲気」「双方向的授業」「子どもが目標を持てる実践」

二学期の体育的行事・文化的行事、日々の授業・宿題など、最後までやりぬく感覚と人権を大切にする雰囲気が学力向上につながっていると感じました。教育総合センターには、すてきな本がたくさんあります。

（担当 谷口）